

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化學の進歩

昭和三年四月刊行

第二卷 第一輯

目次

原報

樟腦の蒸氣壓測定(豫報).....	吉本晴一.....	1
三沃化砒素の蒸氣壓測定.....	堀場信吉 井上亮平.....	6
還元ニッケルの存在に於ける一酸化炭素の分解(豫報).....	堀場信吉 李泰圭.....	11
特殊の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張(第一報補遺).....	堀場信吉 今堂健雄.....	9)
結晶水の結合状態に對する分散度の影響に就て.....	萩原篤太郎.....	23

紹介

新量子論.....	田村松平.....	1
筋肉收縮と筋肉に依る化學的作業.....	古谷登.....	39
膠質系の平衡に就て.....	陳之霖.....	62

雜報

第二卷第二輯は昭和三年七月發行の豫定
であります。

本誌に関する批評、注意要求等は京都帝國
大學物理化學研究室内 市川頑治あてに
願ひます。

昭和三年四月十五日印
昭和三年四月二十日發

刷
行

(年三回刊行)

物理化學の進歩第四輯
定價金壹圓參拾錢

編輯主幹

京都帝國大學物理化學研究室

堀 場 信 吉

發行者

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

佐 藤 正 叟

印刷者

東京市京橋區弓町二十五番地

高 橋 郁

發 行 所

東京市赤坂區傳馬町三丁目十番地

至 文 堂

振替東京二九五〇七番 電話青山 { 三五四六番
四三四三番

三協印刷株式會社印刷

京都帝國大學物理化學研究室編輯

物理化学の進歩

年三回刊行

第一輯目次 (大正十五年十月刊行) 定價金壹四五拾錢

化學反應の副射説。一次反應の機構に關する Roy の説に就て.....	理學博士	堀	堀	堀	堀
Dalton氏分壓の定律に對する違背に就て.....		手	井	次	太郎
興奮水銀分子による水素分子の活性化に就て.....		近	森	誠	一郎
電氣放電による活性水素に就て特にその化學的動作に就て.....		市	川	禎	治
ニッケル、銅觸媒の存在に於ける水素の臨界電壓.....		李	泰	圭	三郎
アトムストラレーン.....		城	野	和	三郎
鹽素及び水素の光化學結合に就て.....		市	川	禎	治

第二輯目次 (昭和二年三月刊行) 定價金壹圓參拾錢

鹽素及び水素の光化學結合に就て(第一報).....	{ 理學博士	堀	堀	堀	堀
特種の膠質系に對して「ワイゲルト効果」の擴張	{ 理學博士	堀	堀	堀	堀
(第一報).....		今	堂	信	吉
界面電位に就いて.....		志	方	益	三
最近の赤外スペクトルの研究.....		石	野	俊	夫
α-Particles による化學作用.....		陳	之	森	三
強電解質論.....	理學博士	堀	堀	堀	堀

第三輯目次 (昭和二年七月刊行) 定價金壹四五拾錢

簡單なる石英又は硝子製壓力指示計に就て.....	理學博士	堀	堀	堀	堀
濃厚水溶液の蒸氣壓測定.....		古	谷	信	吉
焼付及び鑛銀により反射回折格子を作る方法.....		今	堂	健	雄
氣態反應速度論(衝突説).....		市	川	禎	治
赤外線吸收バンドスペクトル、最近の赤外線スペクトル					
の研究(第二).....		石	野	俊	夫
過マンガン酸還元作用機轉に就て.....		古	谷	信	吉
モレキュラストラレーン.....		城	野	和	三郎
ラングミーアの觸媒理論.....		李	泰	圭	三郎
光化學作用と生命.....	理學博士	堀	堀	堀	堀

最新刊

東北帝國大學教授 理學博士 大久保準三著



定價金六四五拾錢 送料金拾八錢

本書は新制度の中等教育物理學教授要目に基いて物理學一般の知識を平易に且つ系統的に詳述して其の概念を遺漏なく收得せしめると共に日常生活に於て屢遭遇する多くの事項をも加へ物理學の實際的運用に資せしめんことを期した。就中其の基礎的事實並に其の原則・法則の物理學的意義を詳説し、其の根本的知識を理解せしめることに努めた。且つ物理學最近の發達をも述べ、力めて新知識を知らしめると共に、世界の物理學進歩の趨勢を明かにした。挿圖は物理學講義に極めて重要なる地位を占めるものであるから、力めて多數に之を採用し、而も十分に意を用ひて直接實驗した實物寫眞を多く收め、器械器具の如きも多く實物の寫眞を以てした。尙各種類の計算を多數採録し、其の模範的解法を示し、何人にも直に要領を會得せしめるやうに心掛けた。

要するに本書は著者が豊富なる學識を以て物理學全般に亘り縦横に解説したるもの、此の點に於て全く類書を見ないので、中等學校物理教授者諸子の絶好の參考書であり、高等學校専門學校學生諸子の無二の參考書であり、中等學校生徒諸子の自修復習の此の上もない指南書である。

自然科學研究叢書

第一編 近世高等代數學 昭和三年六月發行

京都帝國大學教授
理學博士 園 正造 著

第二編 高等物理學概論 昭和三年十月發行

東北帝國大學教授
理學博士 大久保準三 著

第三編 物質運動論と物理化學 昭和三年十一月發行

京都帝國大學教授
理學博士 堀場信吉 著

第四編 動物發生學 昭和三年十二月發行

九州帝國大學教授
理學博士 大島廣 著

第五編 環の理論 昭和三年十二月發行

京都帝國大學教授
理學博士 園 正造 著

第六編 昭和三年十二月發行

京都帝國大學教授
理學博士 喜多源逸 著

至文堂編輯部編

代數問題集

學習參考用・教科書併用

定價	}	初學年用	金	七	十	錢
		上級用	金	八	十	錢
		送料各	金	八	錢	

凡そ代數學に上達せんと思へば、數多くの問題に當りその解法に熟達せねばならぬ。それには良き問題集を選擇して教科書と併用せねばならぬ。又如何に多くの問題を集めても、ただ雜然と採録したのでは、徒らに勞多くして所期の結果は得られない。

本問題集は中等學校數學教授要目に準據して編纂せられたものであつて、悉く模範的問題を輯録し、意をその配列に用ひ、易より難に入り、初學者をも一度本書を手にはせば順次に導きて代數學の奧義に達せしめることが出来る。

貴重なる精力と時間とを徒費することなく、最も速かに上達せしめることは本書の主眼とする所である。これまことに本書が刊行早々教育界に於て多大の好評を博し、續々として諸中等學校に教科書併用として採用せられ、又學生諸君からは、最新理想的なる代表的學習參考用問題集として歡迎せられつゝある所以である。實に本書は代數學難に惱める學生諸君並に高等學校専門諸學校受験生諸君にとつて無二の良參考書である。

東京帝國大學助教授 増田惟茂先生著

實驗心理學序説

前編

心理學問題の理論的及實驗的研究

今や世界の心理學は全く劃時代的新氣運に際會し、其根柢から改められんとしてゐる。本書はこの新氣運に乗じて従來の何れの學説にも捉はれることなく、著者獨特の思索と實驗とを基礎として其の蘊蓄を傾倒し心理學の眞面目を闡明すると共に今後の新進路を示してゐる。

一 本書は従來の心理學書に見るが如き根據の不安定なる實驗やテストに慊らずして、堅實なる理論で基礎づけながら心理學の實驗を懇篤に詳述した。

一 本書は一面に於て哲學書である。單なる思索や淺薄なる經驗哲學に慊らずして、その實驗的研究を徹底せしめながら、人生に對する深い同情と眞理に對する飽くことなき熱求とに驅られながら著者獨特の哲學觀を論述した。

一 本書は各章の排列に独自の新機軸を出し、説明頗る懇切初學者に對しては最も分り易く一讀以て諸家の説を知り世界の心理學界の趨勢に通じ心理學の正しい學び方を示し、尙又一層立入つて研究せんとする専門家に對しては、どこまでも其の好伴侶たらんことを期した。

著者は我國心理學界に於ける新進の大家、本書は實に著者が十數年の研究の結晶であつて、其所説は當に我が心理學界の一大權威であるばかりでなく、正に世界の心理學界に對して一大貢獻をなすものである。若し夫れ英佛獨の何れかの國語で書かれたならば世界の心理學界に於ても亦廣く眞面目に讀まるべき世界的名著である。苟も新心理學の眞諦を解し心理學の新機運を知らんとする人は先づ本書を見られよ。

定價金 五圓

送料 金拾八錢

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著

定價二圓七十錢
送料八錢

版五廿

倫理學概論

本書は倫理哲學を以て我が學界に重きをなせる著者が、その該博なる知識を以て倫理學上の諸問題を最も廣汎に亘り極めて公平に取扱つたものである。本書の生命とする所は各種の倫理學說を最も正確に解説して、これを正當に批判すると同時に、著者獨白の意見を以て申貫するを忘れなかつたことである。更に本書の主眼とする所は、その蘊蓄を傾倒する底のものでなくて、寧ろ倫理學の入門書たらしめんとしたことである。随つてその解説に於ても用文に於ても平明を旨とし何人と雖も一讀直ちにその要領を會得せしむることに心をこらひた。これによつて讀者は自己の反省と實踐とに資すると共に、進んでは人生の哲學的思索の諸問題に對する金鑰を把握することが出来るであらう。實に本書は邦人の手になれる殆んど唯一の倫理學概論とも云ふべく、思想問題の噴しむ時に於てその根本的善導法を標置する絶好の著書である。更に本書は専門學校の倫理學教科書としても極めて適當なものである。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著

定價三圓
送料十二錢

版三

經驗派の哲學

現代は哲學の時代である。實に哲學は人生の深化であり眞理の殿堂である。眞の自由と解放と達觀とは専ら哲學的思索によつてのみ得られる。惟ふに現代に於ける一切の思想問題社會問題乃至教育問題は今やその根本よりの解決を要望してゐる哲學的思索は此等諸問題の解決に對する唯一の金鑰である。本書に收むる所は現今世界を風靡しつつある英米の經驗派の哲學を主とし加ふるに佛のベルグソンの哲學を以てした。實にこの經驗學派の哲學は獨逸派の哲學と相對立して哲學の分野を畫した一大潮流である。而も我學界に於て看過されて居る一面である。著者は我が國に於ける經驗學派の第一人者その周匝にして徹底せる解説論明はよくこの學派の本づく眞理觀の特質と根底とを指摘しかねて人生生活の原則を闡明してゐる。是れやがて哲學的思索の全野に亘つて理解を助け一道の光明を與へたものである。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著 定價二圓八十錢 送料十二錢

思索の人生

本書は著者が人生の高處に立つて廣くその思想生活の各般に亘り内面的に極めて深刻に思索し批判したものである。本書の所論は文化の本質より人生の法則に關する一般的理論を初め更に進んで現代の所謂思想問題より實際生活にまで立入つてゐる。實に歐洲大戰後の改造は畢竟精神文明の提唱にある、精神文明の普及によつて人生を高め人生を價値つけんとするに他ならぬ、而して精神文明の要素は一にかかつて思索に存する。この思索によつて思想を深めその思想によつて自らも生き社會をも導く是れ文化生活の根本義である。然らば如何なる思想によつて自らも生き社會をも導くべきか、如何なる思索が人生を最も意義あらしめるか、思索が如何に人間生活に重要なるか、是れ本書が提唱せんとする大眼目である。今や時代は大動搖より小動搖に破壊より建設に、衝動化より合理化に移り進まんとし、人々はその心に目醒めて人生の根底より思索し深く新に改造の道を求めんとしてゐる。此の時に當り哲學的思索を以て我が學界に重きをなせる著者の該博なる知識を傾倒したる言説は快刀亂麻よく人生の新生活を開拓して人心の歸趨する所を明示してゐる。實に本書は精神文明の基礎を決定するもので、同時に讀者の思索生活をより深く根本的に善導する絶好の著書である。

東京帝國大學講師 文學士 大島正徳著 定價三圓五十錢 送料十二錢

新思想の批判と主張

今や吾が思想界は一大危機に際せり、上下三千年に亘りて連綿として變らざりし吾が國民思想は歐洲戰後の外來思想に影響せられて今や全く混亂の状態にあり、此時に於て當になすべきは吾が國民思想と外來思想との調和にあり新思想と舊思想との融合にあり。此の兩思想を融和するには先づ國民思想を闡明し、國民思想と外來思想との長短利不利を考察し批判して新道徳を樹立せざる可らず、新思想の批判と新道徳の樹立是れ實に刻下の急務にして識者の思ひを潛むる所著者亦茲に見る所ありて本書を公にす。内容は第一自由解放社會連帶、第二國家人格論、第三現代と道徳的改造、第四自發教育と白發道徳の四項目より成り更に二十二の細目に分る著者大島文學士が斯界の重鎮たる事は世既に定評あり。本書が新時代の無二の經典たる事言を俟たず。

東京帝國大學講師 大島正徳先生著

最新刊

自治公民の根本義

定價金貳圓五拾錢

送料金拾錢

現代は立憲自治の制度の下に生きる時代である。而して自治公民の精神的自覺に對する要望は今日より大なるものはない。近頃頓に公民教育の必要が唱說せられ自治訓練の急務が叫ばれ立憲思想に關する社會教化が努められるに至つたのは喜ぶべき現象である。而も現時の實情よりすると更に一層深き根柢より之を基礎づけ更に徹底的に之を國民意識の内部に植付けらるにあらざれば個人並に自治團體乃至國民の獨立的人格としての生長發展は極めて覺束ないものがある。本書はこゝに見る所があり自治公民の法制的解釋の上に出で専ら精神的思想的解釋を施してその根本義を明かにした。著者は哲學倫理を以て我が學界に重きをなせる大家その平常の學者的思索を基礎とし最近東京市教育局長として實質的方面的體驗を以て先づ自治の本義を説いて自修自律自考に及び公民の意義を論じて社會我的自覺を究め更に人生哲學の奥義に立つて現代社會の世相を解剖痛論してその缺陷を指摘すると共にその進路を示明し憂國慨世の熱誠は紙幅に溢れ世人の猛省を促すこと極めて切なるものがある。而も透徹せる理論を説くに専ら平明を旨とし何人と雖も一讀直にその要領を會得せしめることに意を用いた實に本書は自治立憲制の下に普選の現代に國民指導の最大幹線を描出したるもの萬人必讀の自治公民讀本である。

發行所 至文堂 東京市電報 赤坂青東 區山二 馬四二 町三九 日四〇 番三七 地番香

國史研究叢書第一編

東京帝國大學助教 文學博士 平泉澄先生著

忽三版

中世に於ける精神生活

定價金四四五拾錢
送料金拾八錢

本書は從來殆ど閉却せられたる中世に於ける精神生活を主題とし、之を縦横に解剖し論議し、前人未踏の境地を開拓し、新たな組織を與へんと試みたものである。之が中世に入つて如何に變遷したるかを一先づ上代に於ける教育を検討して其本質を究め、之が中世に入つて如何に變遷したるかを見、上代に於ける心境が如何に強烈に各方面に現れてゐるかを見た。

一 中世に於ける上代憧憬の念はやがて古典の研究態度より引いて、強烈なる宗教意識の問題を誘導し、途に上代の文學的價値は、古典の研究態度より引いて、強烈なる宗教意識の問題を誘導し、を明かにすると共に、此の宗教的意識は主として寺院の活動に依つて醸成せられた事情を明かにした。

一 中世に於ける教育の源泉たる寺院の活動を説き、其の時代相との關係を探討して寺院教育の本體を見るとき、從來唯一の教育機關と考へられてゐた金澤文庫、足利學校を解剖して、其の變遷を打破し、兩者とも殆んど教育に關係のないことを明快に指摘した。

一 中世生活の一大主流をなす愛憎の本質を解剖して深刻なる時代形相を詳細に、説述する

一 明と共に、之が上代末期の類廢と、更に陰陽道、宿曜道並に佛教思想に因由する事情を闡明した。

一 更に中世に於て發頭した新勢力たる武士的精神の特性を論じ、其の思想的根柢が禪宗によつて與へられたことを説き、やがて宋學が之に代つた所以を明かにした。

一 著者は國史學界に重きをなせる新進の大家、其の透徹した歴史觀と最も新しい研究法とを具體化して錯雜極りなき中世精神生活の種々相を捉へ、徹よく其の闇黒を照破し、遺憾なく其の全體を展開してゐる。蓋し本書に依つて、歴史家は其の研究の新生面を發見し、思想家は中に於ける文化的價値を見出すであらう。

國史研究叢書第二編

東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生著

三 版

中世に於ける社會と社會の關係

定價金 參圓五拾錢
送料 金拾四錢

我が國中世期は從來専ら武家時代として取扱はれ、その社會生活に極めて密接なる關係を有し、而も極めて重要な地位を占有する神社並に寺院に就ての研究は殆ど閑却せられてゐた。本書は中世史に於けるこの大缺陷を補はんが爲に専ら當時の社寺と社會生活との關係を研究したもので、之に依つて我が中世期は始めてその眞實相を闡明することが出來た。

一 アジール(寺入り)を中心として社會に於ける寺院の地位を論究した。先づ西歐諸國のアジールの歴史を述べ我が國上代に於て殆ど見なかつたアジールが中世に入つて漸く諸寺の間に發達し遂には如何なる重罪犯人と雖も一度寺門を入れれば忽ち追跡を免れ、寺院は殆ど治外法權を有し公家武家と鼎立するに至つた狀勢を説述した。

一 經濟生活を中心として社寺と社會との關係を究明した。即ち市町村の發達、商業、金融等の狀態を述べ頼母子、無蓋、爲替等の發達が社寺に負ふ所多きを説き關所御師等に就て社寺と交通との關係に及び、更に西洋のギルドに比すべき座の問題を論述した。

一 精神生活の方面に於て教育を主とし社寺との關係を明かにした。即ち幾多の新發見により中世の往來物約三十種をとつて之を縱横に解剖し、子弟は悉く寺院に學び教科書は多く僧侶の手に成つて社寺が教育の中心をなした事情を論じた。

一 かやうに犯し難き特權を有し社會生活の中心をなした社寺が中世の終近世の始に於て俄然勢力を失墜するに至つた狀勢を説き内外にその原因を究めて世運の推移を明瞭にした。

著者の前著『中世に於ける精神生活』は一度出でて學界に異常なるセンセーションを惹起し思想界讀書界に大なる波紋を描いた。少壯氣鋭なる著者は學界注目の焦點に立つて今又本書をなす。實に本書は著者が大學院に於ける研究の結果を要約したもので審査の結果學位を授けられたもの、著者の中世史研究の第一歩であつて、未だ會て知られなかつた幾多の重要な史實を驅使して前人未到の境地に參入し國史に一新生面を開いたものである。實に本書は少壯敢爲なる著者の生新なる史眼と正確著實にして而も自由奔放なる態度を以て書かれたるもの、これ從來の史書に絶えて見ざる所である。

東京帝國大學助教授 文學博士 平泉澄先生著

忽三版

我が歴史

定價金參圓四拾錢
送料金拾四錢

本書は著者の過去十年間に於ける國史の研究論文十三篇を収録したるもの。凡て是れ前人未發の新説で何れも學界を驚倒せしめたものである。本書の巻頭卷尾を飾る我が歴史觀並に歴史に於ける實と眞とは著者の史學に關する高邁なる見識を語る者で、歴史研究に一新旗幟を翻して史學の正しき歸趨を明かにしたるもの著者の面目躍如たる者がある。更に其史實の研究に至つては透徹せる歴史觀と犀利なる眼光とは紙背に徹せずんば止まなかつた。其の日光東照宮の史實を説いては寛永の大造營の事情を仔細に究明して舊説を悉く論破し前後十三年の長年月を費したりといふ通説を覆して僅々十七ヶ月にして成れるの真相を喝破したるが如き、徳川家康の遺金を研究しては希觀の史料を尾州家並に久能山に得て複雑極りなき史實を明快に組織だて經濟的方面より家康秀忠家光の性格の特質を鮮かに描出したるが如き、又史上に煙滅せる五辻宮を研究しては守良親王の御事蹟を隠れたる斷簡零墨の間に辿り建武中興前後に於ける小説よりも奇なる波瀾重疊の御生涯を傳して殆ど奇蹟的に成功したるが如き全く國史界獨歩の觀がある。そして此等三篇は著者が學位を得たる參考論文である。

其の他源賴朝が朝廷の年號を用ひざりし事情を闡明したるが如き、經濟史上最も複雑にして研究に困難なる「座」の問題を提げて諸家と論陣を張りたるが如き、又龜山上皇殉國の御祈願に關し國史界に議論沸騰したる際に嶄新なる心理的研究に依りよく其の真相を明かにしたるが如き、守護地頭に就て諸家の議論紛糾したる際に其等の學說の根本的誤謬を指摘して別に透徹せる新見解を出したるが如き、本書に收むる諸論文は何れも國史界の第一線に立つものである。全卷是れ金玉の文字苟も歴史に志す者の必讀の好著である。

東京帝國大學文學部講師 山中謙二先生著

最新刊

西洋史概説

體裁

定價金 四圓

送料金拾四錢

一體史學究極の目的は個々の史實を研究して其真相を究めるといふよりも、更に進んでその個々の史實が人類生活に如何なる意義を有し、それが如何に發展して現代生活を馴致したかを明かにする所に存する。本書は實に我が史學界に重きなる著者が、この史學本來の立場に立つて西洋史を概観し一系の下に組織立てた新しい試みで、其の透徹せる歴史觀と豊富なる思想的素養と最も新しい研究法とによつてよく其真相を究めてゐる。

一本書は西洋史の知識に正しい系統を與へ人類生活に意義あらしめることを主眼とした。即ち古代美術、文藝復興、産業革命、世界大戰、古代希臘の諸聖、シーザー、那翁、沙翁、マルクス其他凡ての史實を捉へて史上に如何なる意義を有し如何なる役割を果し又將來に如何なる影響を及ぼすかを説いて之を嚴正に批判した。而して著者の犀利なる史眼は此等史實の裡に潜む思想生活の真相を捉へ其變遷推移の狀を大觀し人類生活發展の真相を描出した。

一更に過去の史實によつて現代の山つて來つた趣を明確にした。即ち古代に就ては文化の變遷推移の跡を辿り、近世に就ては政治社會の方面に重きを置き、かくて現代文明發達の経路を明かにし、以て將來の向ふべき所に資せんとした。

誠ニ本書は人類經驗の總記録であり、卓越せる文化史であつて特に現代生活に密接なる交渉を有する點に於て萬人必讀の良著である。實ニ本書によつて歴史家は其研究の新生面を發見し、一般讀書家は盡きざる興味を覺えながら現代世界の大勢を知ると共に現代社會生活に對する正しい理解を得ることが出来る。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第一篇
東京帝國大學助教 文學士 久松潜一先生著

忽七版 **萬葉集の新研究** 定價金參圓五拾錢 送料金拾四錢

從來の萬葉研究の多くは殆どその註釋等にとどまつてゐる。本書はこの點にあきたらずして、萬葉集に造詣深い著者が、從來の成説に提はれず、全く自由の高處に立つて深くその内容本質に立ち入り、その考察に何等の拘束をも感ずることなく、専ら批評的態度をとつて根本的に研究した多年の成果を一系の下に纏めたものである。

一 全體として人と作品の間を流れる抒情的精神を見ようとしたこと

一 人麿、赤人、憶真、旅人、家持、蟲曆等の萬葉集の主なる歌人やまた女歌人や、民衆歌人を對象として、萬葉集の詩形、神人の思想、古代の傳説、上代生活等の主なる問題を考察する態度をとつたこと。

一 萬葉集の歴史的意義を見るために、肥後の歌を概観して萬葉集を産出する過程を眺め、萬葉派の歌人を説いて萬葉集の流れを見ようとしたこと。

一 萬葉集の成立を説き、その研究の發達をも眺めて、基礎的研究にもふれてゐること。

本書はこれ等の新見地に立つ前代未言の考説である。實に不鮮によつて萬葉集の研究は確かに一新生面を開拓したものである。萬葉研究者上代文學に興味を有する人にはいふまでもなく、苟くもこの國民的歌集の真相を知らんとする人々の爲に無二の伴侶である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第二篇
第六高等學校教授 文學士 麻生磯次先生著

忽五版 **近世生活と國文學** 定價金參圓五拾錢 送料金拾四錢

從來の特權階級の文學は徳川期に入つて全く一般民衆の手中に渡つた。伸ぶべくして久しく伸び得なかつた鬱鬱たる民衆の氣憤は、一度因襲の手より脱するや俄然として白らの生活の樹立に赴いたかくして止むに止まれぬ民衆の姿態と、その切實に表現せられた文學との交渉を深く内面本質に立入つて如實に見んとしたものである。一 全體として文學を生活の表現として考へ同時に生活の諸相を通し文學としての現象の特質を見ようとした。一 浮世草紙浄瑠璃本、洒落本、滑稽本等を展開の姿の下に考へ、これが世相との交渉を見ようとした。一 武士及び町人生活、遊里生活、俳諧生活、書齋生活等の諸相を眺めその特質を考へた。一 武士と素町人、遊女と地女、行脚僧と遊治郎の對立に時代の特殊な姿を認め義理人情、絆、通、わび、さび、櫻知、諷刺等の興味ある事柄に就て述べた。一 階級的意識を考慮して時代精神の特性を解剖し生活展開の理法を見ようとした。

著者は新造學の士、その多年の研究によつて複雑多様なる徳川文學の中心基調をなす種々相を捉へて前人未踏の境地を開拓し、よく民衆生活の全野を展開してゐる。徳川時代の文學、世相の特質を知らんとする人には無二の伴侶であり、更に現代の生活、當來の文藝に興味を有する人々には多大の暗示を含んでゐる。

目次

第一章 概論	一、平民文學と世相	二、形式と儀禮	三、施政の要
第二章 武士と町人	一、武士の屬性	二、武士の教化	三、町人生活
第三章 遊里中心の生活	一、女性の地位	二、傾城氣質	三、人情生活
第四章 俳諧	一、俳諧の隆盛	二、俳諧生活の基礎	三、俳諧の道
第五章 遊女	一、遊女の生活	二、遊女の地位	三、遊女の生活
第六章 浄瑠璃	一、浄瑠璃の生活	二、浄瑠璃の地位	三、浄瑠璃の生活
第七章 洒落	一、洒落の生活	二、洒落の地位	三、洒落の生活
第八章 滑稽	一、滑稽の生活	二、滑稽の地位	三、滑稽の生活
第九章 浮世草紙	一、浮世草紙の生活	二、浮世草紙の地位	三、浮世草紙の生活
第十章 浄瑠璃	一、浄瑠璃の生活	二、浄瑠璃の地位	三、浄瑠璃の生活
第十一章 洒落	一、洒落の生活	二、洒落の地位	三、洒落の生活
第十二章 滑稽	一、滑稽の生活	二、滑稽の地位	三、滑稽の生活
第十三章 浮世草紙	一、浮世草紙の生活	二、浮世草紙の地位	三、浮世草紙の生活

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第三篇
大阪女子専門學校教授 文學士 兒山信一先生著

忽四版 日本詩歌の體系

定價金參圓五拾錢
送料金拾四錢

和歌、俳句、俗曲、民謡などの日本詩歌は國文學史上の花である。そしてこれ等はその量に於て各時代を通じて極めて重要な地位を占めてゐる。實際國文學の研究はその大半をこれ等詩歌の研究に俟つべきものであらう。しかも従來の研究は單なるその部分的研究の外に出でず表面皮相の研究に止つてゐる。本書はこの點に悖らずして著者が多年の蘊蓄を傾倒し日本詩歌の全野に亘り極めて複雑多様な内面本質に立入つてこれを組織立て體系つけたものである。

一和歌、連俳より唱歌、俗曲、民謡等に至るまであらゆる種類の詩歌を對象とし、歌經、祭文、鉢叩、體操歌、歌劇などをも一々網羅した。

一日本詩歌の歴史的開展を跡づけたものではあるが、單なる表面に表はれた歴史的事實よりも寧ろその根柢に横はる存在理由を重んじながらその發展を系統的に敘述した。即ち日本詩歌が如何にして發生し分化したか、又それが如何にして發達興隆し何か故に衰滅萎靡したか、更に將來如何に發展しゆくべきか等の問題を解決しようとした。これによつて日本詩歌の發生、發達、變遷、衰滅の根本理由を闡明した。

一詩歌そのものに對する正しい理解を有し確實な根據の上に立ち科學的方法によつて整理した。

日本詩歌は國民と共に存し國民と共に榮えるものである。本書はその歴史的根據の上に立つて日本詩歌の新生而を開展すると共に更に新しい問題を提出したものである。日本詩歌の研究者は勿論一般國文學愛好者に絶好の著書であるばかりでなく苟くも廣く詩歌に思ひを寄せ興味を有する人々には多大の暗示を齎すものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第四編
文學士 手塚昇先生著

忽三版 源氏物語の新研究

定價金參圓參拾錢
送料金拾四錢

源氏物語出て、九百餘年、常に國文學上の一異彩であるばかりでなく全世界に於ける最古の小説の一として、しかもあの時代に人情展開の過程を寫した物語として、その組織に於てその敘述に於てかくまでに完備したのを見たのは、正に世界文壇の一大奮異である。

吾々は祖先の中にかゝる偉大な文學を有することを誇とし又心強く思ふものである。かくして源氏物語一度出て國文學の主流は全くその跡を追つて展開したとも見られる。されば源氏物語の研究は古くより行はれ現に年々殆ど大同小異の註釋書が續々刊行されてあるのであるが、何れも先人の舊説を繼承保守したるもののみにて、その評論考證に關する總論的方面の研究に至つては見るべきものが甚だ少ない。著者は新進爲學の士こゝに見る所あり多年研究の結果遂に本書をなすに至つた。實に本書は過去五百年の源氏物語に關する評論考證の研究史を背景とし、而も創作に志す著者が當然の歸結として作家的見地より深く原作者の創作心理に立入つて研究評論したもので、過去の成説に捉はれず幾多新説を出した源氏物語研究史の最前線に立つものである。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第五編

網路高修學校教授 文學士 片岡良一先生著

忽三版
井原西鶴

定價金參圓五拾錢
送料拾四錢

今若し元祿時代を知らうと思ふならば先づ西鶴の描いた所を見るがよい。實に西鶴は元祿時代の先頭に立つて、これを最も明白に最も大膽に、最も具體的に最も鋭く描いてゐるので、此の時代の生活の實際と趣味の根柢とを遺憾なく寫してゐる。一日に二萬三千五百句の放れ業に世人を驚倒せしめたのも西鶴である。一代の文人と俗流者とより等しく讃仰の言葉を博したのも西鶴である。こゝに西鶴のはかり知られぬ偉大さと複雑さとがある。本書は西鶴の此の偉大さと複雑さとの全面容を見盡さうと企てた。即ち人、俳諧、浮世草子、淨瑠璃などを始め其の他一切の餘技を通じて西鶴の素質のあらゆる断面に觸れようとして試みたものである。西鶴の本體を見究めようとするには、内から其の心境的の推移や創作心理に深い探りを入れると共に、外から元祿の時代思潮と時代生活とに觸れる必要がある。そこで時代の環境を明瞭にすることによつて、西鶴の相を鮮明に浮び上らせようとした。かくて著者の犀利なる觀察と多年の研究との結果は、本書に於て明かに西鶴の全面を蘇生せしめた點がある。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第六編

東京帝國大學教授 文學士 湯池孝先生著

最新刊
樋口一葉論

定價金參圓五拾錢
送料拾四錢

從來の觀ぶ小説に嫌らずして新に心理描寫主觀描寫の旗幟を捕して佳作連出盛名を一時に惹いたのは樋口一葉である。一葉の文壇に於ける活動は明治二十五年より其二十五歳にして病没するまで僅に四年。其間作る處二十數篇。本書は此等不朽の名作を通して一葉の全面容を知らんとするのである。

一歸納的態度によつて各方面からの探求を綜合し一葉文學の輪廓と内容を新に組織立てることに論斷の主意を置いた。

一葉文學の背景をなした時代の現勢特に寫實の風潮並に其文壇への推移に留意し明治文學の中樞と一葉の過度期的文學との交渉を明かにしようとした。

一努めて創作の心理に立入り其實生活から作品への過程消息を明かにしようとした。

一葉文學の史的價値を闡明すると共に其文學的價値を探り味を文學たることを強調した。

明治文壇に天才一葉を出したことは吾等の誇である。而も一葉に就て見るべき研究のないのは吾等の大なる恥辱である。著者は新文學に就て遡詣深い篤學の士、殊に一葉を研究すること多年。本書は實に著者が苦心の結果を世に問はんとするもので、當時の文學界の鬱悶氣並に水準を十分に考察して傳統的先入見を脱し一葉の眞面目を生かしてゐる。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第七編
東京帝國大學國文學研究室 文學士 池田龜鑑先生著

最新刊

宮廷女流日記文學

價金參圓五拾錢
送料 金拾四錢

王朝時代に於ける幾多の閑秀作家の筆になつた日記文學は國文學史上に於て特異の地位を占有するものであり同時に又獨自の文學世界を展開して極めて藝術的價値の高いものである。而も此等に対する研究考察は從來全く闕却せられてゐたのである。本書は茲に見る所あり、此の内觀的乃至哲學的ともいふべき一系列の文藝を主題として正當なる文學的地位を要求し暗明澄徹なる批判及び鑑賞を試みて、その眞意義を闡明したものである。

一、本書は著者が過去六年間各地を歴遊し各種の文庫及び諸家に秘藏せらるゝ門外不出の珍籍を渉獵し諸種の異本を精密に比較校合して本文を制定し古註を檢討し前人未嘗の新解を施し精細なる索引を作り、宮廷女流日記考一萬八千枚の原稿を整理し此の驚くべき基礎的作業の上に漸く完成したる批評的鑑賞的考察である。

二、本書は日記文學及びその作者を知的に説明せんとするよりも寧ろ人間的に味得せんとしたものである。從つて王朝女性の模寫の姿態を外面的に解剖分析したものでなくてその間に現はれたる久遠の女性の輝かしき不朽の光彩を直に濃視したものである。

著者は新通儒學の士最近東大國文學科が生んだ秀才である。現時の國文學界に於ける混濁枯涸せる詮索的論文に嫌つずして近代の理知と抒情詩的熱情とを交錯して織り出した美はしい藝術的評論である。實に本書に日記文學の研究としては我が學界に於ける最初の企てであり殆ど唯一の業績であつてその透徹せる判断と明確なる論究と清澄なる鑑賞とは全く他の企及し得ざる所である。

東京帝國大學國文學研究室編輯 國文學研究叢書第八編
大西貞治先生著

最新刊

古代純日本思想

定價參圓五拾錢
送料 金拾四錢

本書は古事記並に萬葉集を中心としその他の文獻の助けをかり國初より奈良朝末に至る所謂精神的創造生活時代、國民生活自覺時代、國民生活激動時代に亘り専ら古代日本人の精神生活を對照として純眞な國民思想を研究したものである。即ち古代文獻に見えた純眞な國民思想の本質それが外來の儒佛思想によつて如何に影響せられ馴練せられたか、これが奈良朝に入つて如何なる形質をとつたか、更に儒佛思想が國民思想の上に如何なる痕跡を残してゐるか、この間に於ける思想界の狀態はどうなつたか。かういふ問題を極めて思想的に内面本質的に説明しようとするのが本書の主眼である。

一、古事記を以て古代日本の哲學と觀じたこと。
一、萬葉集を一般思想界の狀態から専ら思想的に觀じたこと。
一、古事記に具現せられた國民生活と萬葉集に表現せられた國民思想とが本質的に脈々味通するものであると觀じたこと。

從來に於て絶えて見なかつたこれ等の新見地に立ちその内容が尋くがまゝに深く内面の精神生活の殿堂に參入し著者自身の限りなき要求に應じて自由に觀じ自由に考へ新に見出した眞實相を具體的に描き出さうとしたのが本書である。古代の國民思想も現在の要求に應じて新に書き替へられなければならぬ筈である。かくして著者は十餘年研鑽の成果を以て世に問はんとするのである。古代思想は本書に於て初て不變の價値と永遠の若さを得茲に新生命を以て全く蘇生したかの觀がある。而も之によく思想の體形を與へた所に著者の獨創力の深さと磨かれたる世界に浸透して行く力の強さを見出すと共に、國文學研究に一新生面を開きそゝ進むべき道を暗示してゐる。著者は現時國文學界に於て嚆矢せられてゐる少壯有爲の士である。この磨かれたる篤學者を世に紹介することを得たのは弊黨の喜びである附ふ先づ本書について見られよ。

東京帝國大學國文學研究會編輯 國文學研究叢書第九編
東京女子大學教授 文學士 倉野憲司先生著

最新刊 古事記の新研究

定價金三圓五十錢
送料金拾四錢

古事記は日本上代に於ける最も重要なる文獻であつて、日本文學の源泉として、國民思想の搖籃として又古代の國民生活を活寫したものと、古代の日本を知る殆ど唯一の寶典である。而も從來の古事記研究は多くその註釋の範圍を出でなかつた。本書は、この點に據らざして深くその内容本質に立入り、全く著者独自の見解によつて段々研究論明したものである。

- 一古事記を上代に於ける民族的敘事文學と觀じ、その成立・内容及び形式に亘つて民族的敘事詩の本質的研究を經とし、言語・神話・宗教・人類・考古・土俗・歴史・民族・心理等の各方面よりの科學的研究を繪としたものであること。
- 一古事記研究の發達を眺めてその基礎的研究にも觸れたこと。
- 一古事記の素材をなす神話・傳説及び説話の比較討駁を試みたこと。
- 一古事記に具現せられた上代の國民思想及び國民生活を闡明せんとしたこと。

本書は以上の新見地に立ち著者が多年の蘊蓄を傾倒して複雑多様な古事記の内容本質に立入つて之を組織立て系統づけたもので、明かに古事記研究に一新生面を開拓したもので、その科學的研究を試みた最初のものである。實に本書に於て古事記の眞意義は始めて闡明せられた觀がある。

東京帝國大學教授 文學博士 藤村作先生著

五版 上方文學と江戸文學

定價金貳圓八拾錢
送料金拾貳錢

徳川期の文學は國文學中の花である。浪華から江戸へ、元祿から文化文政へ、藝術の花は移り移つてとりどりの色を見せた。近松や四鶴や芭蕉や種彦やその他の所謂戯作者達。淨瑠璃や、淨世草子や、俳諧や洒落本などの所謂俗文學、是等の作者と作物とは吾が徳川期の文學を飾るものであり、同時に國文學中に重きをなすものである。本書は徳川文學の研究に於いて現代の第一人者たる藤村博士が興味ある題目を捉へて元祿江戸の文學を平明に論述したるもの、特權階級の手から民衆の手に渡された徳川文學の消息、「粹」と云ひ「通」と稱する當時の町人生活の眞相を知るには絶好の資料である。元祿趣味を愛し、江戸趣味を喜ぶ人の爲めに無二の同伴たることは云ふまでもない。

國語國文學の最高權威
 國語教育
 東京帝國大學國文學研究室編輯

國語と國文學

大正十三年五月創刊 每月一回發行

特別號は年二回、四月、十月發行し、其他は普通號とす

定價表		普通號	特別號	半年分(特別號)	一年分(特別號)
定	價	五拾錢	壹圓五拾錢	四圓	八圓
價	稅	一錢	二錢	四錢	八錢
郵	稅	一錢	二錢	四錢	八錢
共	共	六錢	七錢	八錢	十六錢

每號國語國文學界の大家新進學者の研究並に國語教授に關する意見を發表致しますが、尙廣く大方の御投稿を歡迎致します。